



## 聞き手

玉川伸久  
編集委員



福島県矢祭町 町長

# 根本 良一

NEMOTO Ryouichi



□ 2005年9月29日(木) 矢祭町町長室

## 薄い蜜と薄い蜜を 混ぜても濃くならない

——現在、市町村の行財政基盤の強化、行政サービスの向上の維持・向上を目的に市町村合併が進められています。そのなかで、福島県矢祭町は、2001(平成13)年に「市町村合併をしない矢祭町宣言」を行いました。まず、合併を選ばなかった理由・経緯について伺います。

**根本**——合併特例法ができる以前の過去10年の間にも、わが国では11～12個所の合併が行われていました。それは、特例法の合併のように、国の交付金に頼るというものではなく、お互いの意思で、花嫁の結納金のような

形での大らかな合併でした。それが本来の合併のあり方であり、薄い蜜と薄い蜜を混ぜても決して濃くはならないというのが、私の自論です。そこで、ずっと言ってきたのが地方分権です。地方分権こそが、わが国の将来の理想の形です。自分たちで自主的に判断をし、合併しようがしまいが全力を挙げて責任をもつ。それが地方分権です。ですから、国や県はそれを応援していただきたいと思うのです。

地方分権というのは、自分たちで判断をするということです。それが、昭和30年代の昭和の大合併のときは、半強制的に3地区が合併され、矢祭町ができました。そのときは、お互いが離反し、何人もの組長が自殺するとい

う、まさに血の雨が降りました。二度とその轍を踏んではならない。ですから、元来この地域はそういう歴史のなかで、合併には慎重で、一種のアレルギーがあるのです。しかし、今はそういうことを正しいと言わない時代になっています。合併に対して、何も考えずに追い込まれるようにそこに走ってしまう。私たちの町はそういうことはしない。立ち止まって考える。それが合併をしない宣言なのです。

18名の議員が全会一致で、議会に議員提案として「市町村合併をしない矢祭町宣言」を出し、18対0で可決しました。小泉首相は、郵政民営化法案が議会で否決されたので、選挙で民意を問いました。われわれは

可決されたわけですが、この問題は直接制民主主義も大事だということで、全戸にアンケートをとりました。回答率ほぼ100%。賛成が70%を超えました。残る30%のうちの25%は反対で、そのうち15%は財政の不安が主な理由でした。

## ■ 合併による メリットは何もない

——合併によるメリットとデメリットについてはどうお考えでしょうか。

**根本**——住民にとって、メリットは何もありません。役場が経営できるかできないかということだけで、住民にとっては行政がどんどん大きくなり、遠くなるだけです。

合併の目的はスケールメリットです。スケールを大きくすることによって節約ができ、余財が生まれる。そして、それを少子高齢化の対策に回す。しかし、合併をしなくても節約はできます。たとえば、これまで役場では、1人でできるところを3人半くらいでやっていました。かつて140名職員がいましたが、今は77名になりました。将来40名になります。そうすると、10億円あった人件費が、6億円。9年後には、2億7,000～8,000万円くらいで済みます。そして、仕事は今の倍くらいできます。嘱託職員も全廃し、トイレ掃除もお茶汲みも職員がやります。全廃しても誰も困っていない。ただ、楽できなくなっただけです。福島県庁までヒヤリング行くのにも、1人でいいところをこれまでは3人で車に乗って1日がかかりで行っていました。1人でいいでしょう。あるいはファックスを流してもらったり、わ

からないことがあったら電話で聞いたりすればいい。やろうと思えば、いくらでもできるのです。

驚くべきことに、140名いたときには超過勤務手当が3,800万円ありましたが、それが今は77名で1,000万円を切っています。それで役場の住民サービスは、7時30分から6時45分。幼稚園も保育所もその時間で預かっています。勤めに行く前に役場に行ける、幼稚園や保育所にも行ける。ということは、もともと仕事がなかった。ないところに人だけごっそりいたということです。ですから昔は役場の人間は、まわりの町民から蔑みの眼で見られていました。それが今は、「テレビや新聞で取り組みの報道を見たけど、頑張っているね」と、賞賛の眼で見られていますよ。

——「地方自治」ということでは、財政や行政の観点だけでなく、地方の歴史や文化をつくっていくことも重要ではないかと思われませんかでしょうか。

**根本**——地方の歴史や文化を、今まさに合併によって地方自治が壊そうとしているのです。矢祭町には矢祭町の民族性、地域性があります。これを守り続けるということが大事です。また、矢祭町では、水道は10年前に100%整備を終えました。国土調査も福島県第1号として7、8年前に全部終らせました。矢祭町は爪に火をともし思いで、わがままも言わず、みんなで頑張ってきました。子供や孫や年寄りのためにやってきました。介護保険も1,940円で、福島県で一番安いし、全国でも8番目に安い。水道料金も安い。それが、他の町と一緒にになったら、地域の純

粋性も失われますし、100年苦勞することになりますよ。

## ■ 元気な子どもの 声が聞こえる町に

——矢祭町を今後、どういう町にしていきたいとお考えですか。

**立谷**——町全体をしては「元気な子どもの声が聞こえる町づくり」というテーマを決めました。それは少子高齢化に対して、町が残っていくためには、理想としては元気な子供の声があちこちで聞こえるようにしないとけません。成人、青年、壮年層に対しては、行政は何も手当をしないし、1円もお金を使いません。この人たちには朝から晩まで真っ黒になって働いてもらい、税金を納めてもらいます。ただし、自分の親や祖父母が安心して暮していけるような町をつくる。あるいは自分の子供たちが健やかに伸びやかに成長できるような町をつくる。一生懸命働いてもらう代わりに、その親と子どもの面倒はみる。それが理想です。

——最後に、町長ご自身は、地方自治はどのような形のものを目指していくべきだとお考えですか。

**根本**——私は、日本の国は単一民族国家ですから、治めるのにそんなに難しい国ではないと思うのです。政(まつりごと)で治められます。ところが、道州制ではそうはいきません。日本では、その地域、地域の判断で、十分いける。大らかな判断ができるのが地域の良さです。地域で足りないものは、お互いに補完さえすれば、その地域は地域として生きていけると思っています。

——ありがとうございました。